

(様式1)

令和4年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	児童生徒一人一人の障害の状態や特性に応じて、資質・能力の育成をめざし、自立と社会参加の達成を図る。
------------	---

学校整理番号	特20
学校名	青森県立むつ養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚 <u>知的</u> ・ <u>肢体</u> ・病弱

(2) 現状と課題	<p>小学部30名、中学部15名、高等部49名、計94名が在籍し、そのうち9名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は24学級であるが、指導学級として編成している20学級のうち13学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数が多い傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。また、昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症感染防止対策に努めていく必要がある。</p> <p>むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校や保育所等、市町村教育委員会への支援のほか、放課後等デイサービス事業所や移行支援に関する施設、事業所等との連携について、更なる充実が求められている。</p>
-----------	---

自己評価実施日	令和5年2月8日(水)
学校関係者評価実施日	令和5年2月2日(木)

(3) 重点目標	1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開
	2 キャリア発達を促す指導の充実
	3 地域と連携・協働した活動の推進
	4 情報化に対応した活動の推進
	5 生涯スポーツの振興

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員6名(施設関係者4名、企業関係者1名、地域住民1名) ・保護者(P T A会長)1名
計7名

(4) 結果の公表	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年1月27日(金)、2月9日(木)、10日(金)に開催した学部ごとの参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。 ・令和5年2月2日(木)に開催した学校評議員会にP T A会長にも出席いただき、教職員による自己評価や保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。 ・令和4年度学校評価結果報告書を学校ホームページにて公開するとともに、来年度4月に行われるP T A総会において、同内容を行う。
-----------	---

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教育活動の実施 ②感染症対策及び医療的ケアの適切な実施	おおむね達成 ・日々の授業の中で、児童生徒同士が関わる場面を設定したり、ICTを積極的に活用したりするなど、児童生徒が主体的に取り組むための工夫した実践が見られた。 ・感染症対策については、県からの通知に基づき、適宜緊急対策本部会議で対応等を検討し、保護者及び教職員へ文書等で周知して対応できた。 ・医療的ケアについては、緊急時対応訓練を早い時期(4月)に実施するとともに、担任・学校看護師間で対象児の実態を的確に把握して安全に実施できた。	B	・新型コロナウイルス感染症対策を徹底させるのは大変だろうと思う。全職員での共通理解、情報共有が大切である。ぜひ意識してほしい。 ・新型コロナウイルス感染症への対応については、明るい兆しがある。ただ、感染症が終息しない中、感染の再拡大が心配である。大変だと思うが、状況に応じて子供達にいろいろな経験をたくさんさせてほしい。	・児童生徒一人一人の実態やニーズを的確に把握し、個に応じたICTを含めた有効な手立てを講じるとともに、教科横断的な視点をもって深い学びにつなげていく必要がある。 ・教職員の危機管理意識を高く保ち情報を共有するとともに、保護者や関係機関への的確な周知と、必要な情報提供を行う。 ・対象児童生徒に関わる職員だけでなく、全職員が緊急時の対応を確認、共通理解するための研修会を適宜実施する。

2	キャリア発達を促す指導の充実	①児童生徒の思いや願いを踏まえた指導の展開 ②自立と社会参加をめざした指導内容、指導方法の工夫	おおむね達成 ・児童生徒の思いや願いを踏まえた授業や活動を教師間で検討するなどの日々の取組が見られた。 ・児童生徒の年齢や発達段階、実態に応じて、役割への意識や自己の課題への気づき等、様々な活動場面で自立と社会参加につながる取組が見られた。	B	・新規実習先の開拓は大変だと思うが、障害のある児童生徒の将来のためにも今後もお願いしたい。	・児童生徒の実態やニーズに加え、思いや願いを的確に捉えた授業実践を継続する。 ・児童生徒の学びが、校内に留まらず日常生活で生かされることにつながるような指導内容の設定や工夫を図る。
3	地域と連携・協働した活動の推進	①地域の人材や社会資源を活用した指導の展開 ②交流及び共同学習の計画的・組織的な実施	おおむね達成 ・外部講師を積極的に招聘し、専門家から学ぶ機会を設定したことで、児童生徒が意欲的に活動に取り組む姿が見られ、その後の校内での指導にも生かされた。 ・今年度から実施された交流籍制度の手続きにおいて、コロナ禍で制約や変更等がある中で、地教委、当該校と連携しながら居住地校交流を実施することができた。	B	・県内の他の特別支援学校と交流することも、他の地区のことを学ぶ良い機会となる。 ・居住地校交流で回数を重ねたことで、学校だけでなく地域でも知ってもらえることができる。もっと回数を増やしていくことで、子供達同士で学ぶ機会となる。受入側の準備が整っていないケースがあるようだが、しっかり話し合っ進めてほしい。	・外部講師による指導助言を得るとともに、その助言を教職員同士で共有し、普段の指導内容や指導方法等に生かせるようにする。 ・交流籍制度が2年目となることから、居住地校交流の手続きをよりスムーズに行うとともに、交流籍校と連携しながらお互いの児童生徒にとってより意義のある活動内容を検討、実践していく。
4	情報化に対応した活動の推進	①ICTを活用した指導の展開 ②保護者等や関係機関等と連携した活動の実施	おおむね達成 ・校内研究で授業におけるICT活用を取り上げ、教師自身の活用だけでなく、児童生徒一人一台の情報端末を活用した授業実践がなされた。 ・ホームページについては、児童生徒の学習の様子等を毎日更新し、閲覧数が100万件を突破した。	B	・タブレットについて、家庭学習での活用を積極的に行ってほしい。	・ICT活用に関する校内研究による専門性の向上の機会を引き続き設定するほか、ICT活用の好事例を共有する。 ・著作物の掲載について十分確認するとともに、掲載内容や方法などを情報発信の工夫を図りながら、より充実させる。
5	生涯スポーツの振興	①各種スポーツ体験の拡大 ②校内外の諸大会への参加	おおむね達成 ・四校園スポーツ交流会やグラウンド・ゴルフ大会、特別支援学校総合スポーツ大会等の機会を捉え、授業の中で取り上げて実践する姿が見られた。 ・特別支援学校総合スポーツ大会には、高等部の一部の生徒が現地大会へ参加することができ、中学部生徒全員と高等部の一部の生徒は、同日に本校で開催した校内スポーツ大会に参加した。	B	・スポーツを通じた取組が、今後も幅広く展開されることを望む。	・校内での授業や交流会等において様々なスポーツに触れる機会を設けるなど、スポーツへの関心を高める取組を工夫する。 ・特別支援学校総合スポーツ大会へ中学部、高等部の全生徒が参加できるように検討、調整する。
(11) 総括	<p>保護者及び教職員ともに評価点4及び3（評価点4が「よく当てはまる」、1が「全く当てはまらない」の4段階で評価）の項目を選択した割合の平均が8割以上であることから、今年度の教育活動についておおむね良好な評価をいただいております、引き続き教育活動を充実させていく必要がある。</p> <p>保護者アンケートにおいて、児童生徒への指導や学習活動についての評価が昨年度に比べて低下していることから、児童生徒への支援や指導方法等について改めて見直し改善を図るとともに、様々な機会を捉えて学習の成果を披露、発信していく必要がある。</p> <p>教職員の働き方改革の観点から、各学部の行事等の見直しや各分掌における業務内容の整理を進め、教職員の業務改善に努めていく必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症感染防止対策については、国や県からの方針を踏まえ、適切に講じていく必要がある。</p>					